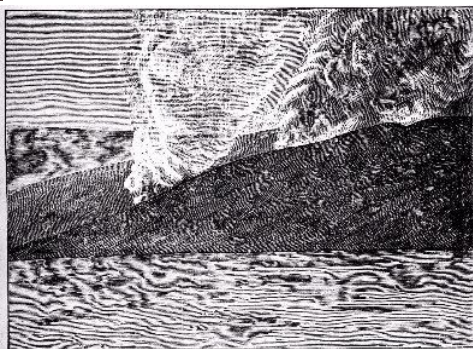




美しい国の遺伝子 を探る・・・講演会



景色



風景



煙噴ノ出雲音
(盛歌ノ望嶺嶺嶺)
「扇シヤ」影臨ッ製ノ岩華次宗道ニ土學建ルヨク崎ニ爲ノ學原上山ノ此

景観



「けしき」と「風景」と「景観」という言葉について調べてみました。「けしき」は平安時代初期に和語化して、ひらがなで用いられていました。中国から入ってきた当初は、「気色」で、「景色」が用いられるようになったのは近世以降とされています。「風景」も中国から入ってきましたが、一般に流布したのは明治以降と考えられます。明治の『日本風景論』が「風景」を一般化させたのではないかと、私は考えています。古語辞典を引いても風景は出てきませんが、「けしき」は最重要語として出ています。「景観」はLandshaft、landscapeの翻訳語として登場したもので、一番新しい言葉です。困みにこの「景観」や「環境」という言葉は中国でも使われていますが、これは日本から中国に輸出されたものです。日本人にとっての景色の歴史は、どんなものであったのか、ということに興味をもって整理を進めてきました。日本人にとってどんな景色があったのか、これからどうしていくべきかについて考えてみたいと思います。

樋口忠彦

テーマ 「景色と景色づくりについて考える」

講演者 樋口 忠彦 氏 (広島工業大学環境学部教授)

日時 2007年7月28日(土) 15:00~17:00

場所 広島市まちづくり市民交流プラザマルチメディアスタジオ
袋町小学校敷地内 広島市中区袋町6番36号 TEL 082(545)3911

参加 無料

主催 都市計画学会中国四国支部(企画・研究委員会)

後援 日本建築学会中国支部、土木学会中国支部、広島県建築士会

申し込み 支部企画・研究委員会佐伯あて7月17日までに Email t-saiki@fukken.co.jp



■樋口忠彦氏 略歴

1944年埼玉県生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学研究科博士課程単位取得退学。新潟大学工学部建設学科教授、京都大学大学院都市環境工学専攻景域環境計画学教授を経て、現在、広島工業大学環境学部教授。都市計画学会石川賞、サントリー学芸賞、土木学会著作賞、建築学会賞(業績)などを受賞。著書に「景観の構造」「日本の景観」「郊外の風景」「都市のデザイン(共著)」など